

新しい宮前市民館・図書館基本計画(案)への パブリックコメントを市に集中しましょう！

宮前区役所・市民館・図書館の移転に反対し鷺沼駅前再開発を考える会

市は、19年3月に市民合意のないまま、「区役所・市民館・図書館」を宮前平から鷺沼駅前へ移転することを決めました。この間、コロナ問題もあり、動きが見えませんでした。ここにきて動きだしました。5月29日には「新しい宮前市民館・図書館基本計画(案)」が発表、そのパブリックコメントが6月29日締め切りで実施されています。

下記のメモも参考にしていただいて、パブリックコメントを川崎市に届けてください。

- (1) 市は、「宮前市民館・図書館基本計画」と同時に「川崎市全体の今後の市民館・図書館の基本計画」の計画も2020年度に決定する予定です。宮前区の基本計画がどうなるかは、全市に影響します。今度のパブリックコメントはその意味でも重要です。
- (2) 市民合意のないなかでの新市民館、新図書館のパブリックコメントです。「市民合意はできていない」「現在の市民館、図書館を残してほしい」の声を大いに市に届けましょう。
- (3) 同時に、この間の人口が2倍に増え、2つめの市民館、図書館は必要です。「鷺沼に2つめの市民館、図書館を」の声をあげましょう。
- (4) コロナとの共存を余儀なくされる時代の市民館・図書館です。しかし、基本計画(案)にはコロナ禍への考え方は一言も触れていません。重大な欠陥です。コロナ時代の市民館・図書館のあり方を示すよう求めましょう。
- (5) 宮前区の市民館・図書館は現在でも他市や他区と比較して設置個所もスペースも少ないのですが、基本計画(案)では、増設をすることなく、現在と同規模の移転で済ます考えです。そして、「市民館と図書館のスペースや機能を融合・共有化させる」ことで乗り切るとしています。鷺沼に移転するならば、現在の図書館・市民館を存続させ設置個所を増やすことを要求していきましょう。
- (6) 新しい市民館・図書館と区役所を含む鷺沼駅前再開発事業は、民間・マンション住民を連携させて賑わいの街を作ることを基本計画にしていますが、コロナと共存の時代に、三密を強める街づくりでよいのでしょうか？ 「三密をさけて集中から分散の街づくり、図書館の資料充実や専門職の司書を配置しレファレンス(相談)事業の充実で施設の専門性を高め魅力ある施設づくり」を基本にすることこそ必要ではないでしょうか？ いま、住民の意見表明が大事になっています。
- (7) 市民館は社会教育法にもとづき、図書館は図書館法にもとづく公益施設です。「無料化、公平な運営、専門性の充実、最寄りの地域で利用でき施設づくり」が求められる、まさに住民が主人公の施設です。しかし、基本計画(案)では、管理・運営手法は「民間活用(川崎版PPP)」の趣旨を踏まえて検討するとしています。この手法では最初から民間ありきの検討手法で指定管理に丸投げが予想されます。超党派の国会議員の図書館プロジェクトも、「図書館の運営に指定管理はふさわしくない」としており、普及も進んでいません。「運営は直営で」の声をあげていきましょう。

以上